

表紙直し

和装本の表紙は一般的に、一番表に薄い染紙があり、それに何回も裏打ちをしたり、分厚い^{ほごがみ}反古紙などの芯紙を当てたりして作られています。

手順 ～損傷が小さい場合～

修理前



修理後



1、損傷部分の芯紙を剥がす



2、表紙の染紙と同じような紙を、損傷部分の裏から貼る



3、元の芯紙を貼り戻す



手順～損傷が大きい場合～

1、芯紙を剥がす

表紙全体が損傷している場合は、表の染紙をすべて芯紙から剥がす。染紙の傷みが激しい場合は、「表打ち」して動かないようにしておく。

【表打ちとは】

虫損が甚だしい場合や、カビや擦れによって表紙の染紙が脆弱になっている場合、そのまま形を保って芯紙から剥がすことは難しい。

その場合は、表から薄い和紙を貼り（「表打ち」）、その後に芯紙を剥がすことによって、残っていた表紙の染紙の破損や散逸を防止できる。その状態で裏打ちをして、その後、表打ち紙は取り除く。



2、裏打ちする

その染紙と同じような紙で裏打ちする。

3、元の芯紙を貼り戻す

場合によっては、裏打ちを繰り返して必要なだけ厚くして仕上げ、元の芯紙は別に保存する。

